WINNER
第30回セドナ国際映画祭
最優秀長編コメディ賞

第3回
ドイツ・パラダイス映画祭
最優秀長編作品賞

第2回
沖縄環太平洋国際映画祭
特別上映

第3回
横浜国際映画祭
正式出品作品

Rules of Living
ルールオブリビング

～“わたし”の生き方・再起動～

「プラダを着た悪魔」
デイビッド・フランケル監督
“なんて心に響く、
美しい物語なんだ”

夢って、今からでも、
はじめていい。

南 果歩　グレッグ・デール
椎名桔平　河北麻友子　すみれ　ジェフリー・ロウ　ヴィナイ・ムルティ

監督・脚本：グレッグ・デール　脚本・翻訳：宮本弥生　エグゼクティブプロデューサー：鈴木由布子　ステファン・ウォラル　サイラス・堂・セスナ　プロデューサー：ジェフリー・ロウ　ウィルコ・C・ルレンス
共同プロデューサー：ケネス・ベクター　室屋翔平　アレクサンドリア・ケイ　ショーン・ニコルス　ラインプロデューサー：栄晴　現場ラインプロデューサー：呉村芳健　撮影：フラヴィオ・グスマオ　美術：高山和久　衣装：片柳利依子　録音：高田 林
助監督：ショーン・レイヤス　編集：日見田健　音楽：ジャスティン・フリーデン　宣伝：HAPPY WOMAN®　宣伝協力：ギグリーボックス　2025年／日本／109分／5.1ch／ビスタ／英語／制作　マーケットテイラー　ミルスピクチャーズ　配給　バリオン　©Mirus Pictures

南 果歩×グレッグ・デールが贈る異文化交流のハートフルコメディ

人生のルールは自分で決めていい。

Introduction

本作は、仕事や家庭、恋愛といったさまざまな選択を抱えながら生きる現代女性に向けた、大人のハートフル・コメディ。
監督・脚本・主演を務めたのは、日米の文化を深く理解するグレッグ・デール。
異なる価値観や文化のギャップを軽やかに描きながら、「本当に自分らしい生き方とは何か？」という全世界の普遍的なテーマに迫る。主人公・美久子役には、俳優・文筆と幅広く活躍する南果歩。椎名桔平を迎え、長年第一線で活躍してきた二人が本作で初共演を果たし、さらに、すみれ、河北麻友子らが物語に彩りを添える。
本作は、セドナ国際映画祭で最優秀コメディ映画賞を受賞し、国内外の映画祭でも高い評価を獲得。
「恋もキャリアも、自分の本音に従って選んでいい。」そんな温かなメッセージが散りばめられたセリフの数々はグレッグ・デール監督自身の経験から生まれている。
本作を観終えたあと、一歩踏み出す勇気をきっと後押ししてくれるはず。

自分を愛することから物語は始まる。

Story

東京で暮らす49歳のキャリアウーマン・美久子のもとに、ある日突然、アメリカ人バックパッカーのヴィンセントが現れる。娘の紹介で始まった、価値観も文化もまるで違う“3ヵ月間のルームシェア”。
ふたりは言葉も通じず、生活の感覚もすれ違うなかで、美久子は共に暮らすための4つのルールを決める。最初は戸惑いと衝突ばかり。でもその違いが、互いの心を少しずつ開いていく。
一方、美久子は、東大卒で有能なビジネスマンの光一という幼馴染と付き合っており、再婚には未だ踏み切れずにいるが、姉からは裕福でスペックの高い光一との結婚を強く勧められている。誠実で安定した彼との未来か、心の奥で静かに芽生えはじめた感情か。“ルール通り”に生きてきた彼女は、初めて、“心で選ぶ人生”と向き合うことになる。
「ルール・オブ・リビング」—それは暮らしのルールであり、生き方のルール。異文化のギャップが、自分自身の声に気づかせてくれたとき、美久子は新しい一歩を踏み出す勇気を見つけていく。
これは、違いに戸惑いながらも惹かれ合っていくふたりと、揺れる心の先にある“ほんとうの自分らしさ”を探す、ラブコメディ。

“ふつう”が違うふたり。
でも、その違いが私を変えていく—。

南 果歩　グレッグ・デール
椎名桔平　河北麻友子　すみれ　ジェフリー・ロウ　ヴィナイ・ムルティ

監督・脚本：グレッグ・デール　脚本・翻訳：宮本亮生
エグゼクティブプロデューサー：鈴木由希子　ステファン・ウォラル　サイラス・望・セスナ　プロデューサー：ジェフリー・ロウ　ウィルコ・C・ルレンス
共同プロデューサー：ケネス・バクター　髙塚彰洋　アレクサンドリア・ケイ　ショーン・ニコルス　ラインプロデューサー：栄 晴
現場ラインプロデューサー：呉村芳健　撮影：フラヴィオ・グスマオ　美術：畠山和久　衣装：片柳利依子　録音：高田 林
助監督：ショーン・レイヤス　編集：日見田健　音楽：ジャスティン・フリーデン　宣伝：HAPPY WOMAN®　宣伝協力：ギグリーボックス
2024年／日本／109分／5.1ch／ビスタ／映倫／制作　マーケットテイラー　ミルスピクチャーズ　配給　バリオン　©Mirus Pictures

“笑って、涙して、そして何より自分自身と向き合える映画でした” ヘレナ・ザーク 映画評論家

“魂と品格、そして意外な深みをもつラブコメディ” OneFilmFan, 映画批評メディア

9.19 FRI ROADSHOW

映画情報はこちら
公式ウェブサイト▶